



青木繁「海の幸」会のこと

吉武研司

「海の幸」との出会いは、考えとみれば高校生の時。気持ちがあるから45年。今も、こんな形で引きずるなんて。

青木繁「海の幸」会のNPO法人を立ち上げてから、半年になるとしている。

会長に大村智、副会長に村田慶之輔、入江観、理事に奥谷博、中山忠彦、網谷幸二、馬越陽子、大津

英敏、山本貞、林紀一郎、本江邦夫、ワシオトシヒコ、佐々木豊、久野和洋などの諸先生たち、またそのほかにも100名ぐらいの先生にも加わって頂き、「青木繁への思い」を「カタチ」にしています。

若い画家の一枚の絵が分野を超え、時を越え、今これだけの人を動かすとは。

きっかけは、10年前に、女子美のスケッチ旅行で、岡本・布良の海岸の傍らにある安房自然村を選んだことだ。

海岸に立った時、「ここがあの海の幸の舞台か」と感動を新たにし、鳥肌が立ちました。

1904年夏、22歳の青木繁と19歳の福田たね坂本繁二郎、森田恒友たちの青春。

坂本繁二郎の話から生まれた「海の幸」。日本の近代への青春と重なり合う作品「海の幸」。時代の象徴となる「海の幸」。

その作品を描いた場所、元網元の家、小谷家がまだ残っています。その場所を残そうと立ち上がりました。

「絵の神様が降りた」と、「絵描きの拠り所」として、地元の方たちと共に、気持ちを重ねる動き出しました。

来年、青木繁が逝って100年になる。(1948年佐賀県生まれ、洋画家、独立美術協会会員、女子美術大学教授)

現在、寄付金を募っています。興味のある方はパンフレットをお送りしますので、ご連絡下さい。
〒214-0008 神奈川県川崎市多摩区菅北浦 3-2-40 吉岡友次郎方
特定非営利活動法人(NPO法人) 青木繁「海の幸」会
Tel/fax044-945-5473 携帯 090-1600-2823 e-mail tama937@yahoo.co.jp